



(参考仮訳)

プレスリリース No. 12/199  
即時解禁  
2012年6月7日

国際通貨基金 (IMF)  
米国・ワシントン DC

## IMF ワークプログラム、安定性、成長および雇用の回復を重視

2012年5月29日、国際通貨基金 (IMF) の理事会は、2012年11月末までの IMF の半期のワークプログラムについて協議を行った。最近の情勢は、世界経済が依然として脆弱であり、システムに影響を及ぼしかねないストレスが新たに発生する可能性があることを示している。この様ななか、同ワークプログラムは、世界経済の安定性と信認の回復を支え、成長と雇用創出の回復につながる事項を重視している。

理事会にワークプログラムの概要を示すにあたり、クリスティーヌ・ラガルド IMF 専務理事は、「IMF の資金を暫定ベースで 4,300 億ドル以上増強するとのコミットメントは、危機を克服するために連携し断固として取り組むという、加盟国の意志の表れである」と述べるとともに「マクロ金融政策に対する明確かつ的確な助言、および十分に練った強力なプログラムをもって、このような努力を引き続き支えることが我々の責務である。これは、安定性リスクが深刻な欧州のみならず、全加盟国に対する責務である」と強調した。

これに関連し、債務の持続可能性を確保しながら、包括的成長を高めることが重要な課題である。IMF は、成長を支える一方で、加盟国の多くに関係している、確実な財政の健全化および債務削減の実現に向け、分析と政策助言を提供することになる。また、IMF のサーベイランス (政策監視) とプログラムにおいて、雇用と成長に関する事項についての分析作業が現在行われている。

ラガルド氏は「世界経済が抱える主なリスクへの現実的な処置策を今後も提供し、波及効果の問題への対処に取り組む加盟国を支え、また各国の経済移行や開発アジェンダを支援しなければならない。さらに、サーベイランスや、クォータ (出資割当額) およびガバナンスの改革を進め、我々の内部プロセスも強化しなければならない」と締めくくった。

本日発表されたワークプログラムは、これらの分野での以下をはじめとする取り組みを最優先事項としている。

- 安定性の回復、並びに金融部門の修復と改革の継続、および成長と雇用に関する諸事項などへの政策助言の強化。
- IMF のコンディショナリティーをめぐる経験の評価、新規プログラムのための教訓を引き出す。
- 移行期にあるアラブ各国への支援を強化。
- 政策助言と金融支援により、低所得国を支援。開発ニーズに応えつつバッファーを構築、天然資源の管理、包括的な各種改革に伴う今日までの経験の評価、譲許的融資のより長期的な持続可能性の確保といった事例を含む。
- 将来の危機の発生の回避に向けた、IMF サーベイランス枠組みの改善などによる国際通貨制度の長期的な安定性の促進。
- 2010 年のクォータおよびガバナンス改革の実施。これにより IMF の正当性と有効性の向上が期待される。